



着任のご挨拶

この4月から着任しました 佐々木健一 です。私の専門は循環器内科と言って、心臓や血管に関する病気を専門に診療する科です。

心臓ってどんな臓器かご存じでしょうか？心臓は全身に血液を循環させるポンプの役割をしています。全身で使われた血液を受け取るために拡張し、新たに全身に血液を送るために収縮します。心臓は生まれてから一度も休むことなくこの拡張と収縮を繰り返しているのです。心拍数が60回/分とすると、1日に86,400回、1年で31,536,000回動いていることになります。すごく頑張ってくれていますね。

心不全

でもそうやって何十年も働き続けているとさすがにバテてくることがあります。そうして心臓のポンプ機能が低下した状態が「心不全」です。全身の血液が心臓に戻りにくくなるためにむくみが出たり肺に水が溜まって息切れしたりします。「心不全」は少しむくんでいる程度の軽いものから、ひどい息切れで酸素を吸わないといけないうるまで様々です。でも大抵の場合、適切に治療するとまた心臓はしっかりポンプ機能を果たせるようになります。心不全の患者さんは急速に増えています。むくみや息切れがある方はぜひご相談下さい。



循環器内科 部長

佐々木 健一

不整脈

心臓は規則的なリズムで動いています。この心臓が動くリズムが乱れる病気が「不整脈」です。

不整脈にも様々な病気がありますが、最近特に増えているのが「心房細動」という不整脈です。これは心不全の原因になることもありますし、心臓の中に血栓ができて脳梗塞の原因になることもあり、治療が必要です。動悸、脈の乱れが主な症状です。

心房細動は脈が早くなることが多いですが、反対に脈がゆっくりになる不整脈もあります。脈がゆっくりになることを徐脈、脈が早くなることを頻脈と言います。頻脈には薬剤の治療が有効ですが、徐脈は薬剤が効きにくく、ペースメーカー手術が必要となることが多いです。これからは当院でもペースメーカー手術を行いますので、ふらつきや意識消失など徐脈を疑う症状がある方はご相談下さい。

狭心症や心筋梗塞の発見に有効な冠動脈CT検査

冠動脈CTをご存じでしょうか。心臓は全身に血液を送っていますが、心臓自身も血液をもらって働いています。この心臓に血液を送る血管が冠動脈です。冠動脈が詰まってきて心臓がうまく血液をもらえず胸が痛くなったりするのが狭心症や心筋梗塞という病気です。以前は冠動脈が詰まっているか調べる方法は心臓カテーテル検査しかありませんでしたが、高性能のCT装置を使うことでカテーテルを入れずに冠動脈を調べる検査が冠動脈CT検査です。当院ではこの冠動脈CT検査を受けることができます。

以上のように、心臓に関する診療を充実させて行きますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶



地域医療連携室 室長
もりい たかひろ
森井 崇弘

平素より当院へのご協力ご理解を賜り誠にありがとうございます。

この度、2023年4月に赴任し地域医療連携室室長を拝命致しました森井崇弘と申します。

これまで17年ソーシャルワーカーとし

て、入院、外来患者様の支援に取り組んできました。

経済・社会構造が目まぐるしく変化し様々な価値観や生活が混在し多様性を求められる時代に、社会的な要因が患者様一人ひとりの健康に与える影響も少なくないと感じています。そのような状況下でも患者様のニーズに応えていくために、院内外の多職種の方々と連携を図り解決していく方法を目の当たりにしてきました。

その経験から、最近では、患者様を通して見えてくる地域の課題解決に向けたネットワーク作りに携わらせていただいております。特にコロナ渦のような有事の際は、医療・介護連携のみならず保健センター、地域のコミュニティーなど多機関、多業種との繋がり
の必要性も強く感じております。

世の中の変化に合わせ患者様への関わり方、病院に求められる役割も日々変化してきています。神戸朝日病院は“病気を治し、生活を支える”「生活支援型医療」の役割を掲げています。当院の特性を活かし、これまで築いてこられた地域の医療・介護のつながりを大切にしながら、新たな地で多くの方と出会う中で、健康に問題を抱えている方々にとって医療や介護が日常生活の足かせにならないよう貢献出来ればと考えています。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



2040年を見据えた

医療法人社団秀英会

神戸朝日病院の取り組み

- ▶ 地域包括ケア病床の増床
- ▶ 機能強化型在宅療養支援病院の届出

事務局長 谷口 美幸

約10年前、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、病床の機能分化と連携を進めるために、全国の都道府県で「地域医療構想」が策定されました。

それぞれの地域（医療圏）で「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」を担う病床がどれくらい必要かということが検討されています。超高齢化、人口の減少が進む2025年から2040年にかけて、医療のニーズが大きく変わることが予想されます。

当院は、専門診療と地域医療を融合した「急性期」と「回復期」の機能を持つ病院です。

2025年から2040年にかけては、地域の「高度急性期」の医療を担当する病院としっかりと連携を図りながら、複数の慢性疾患をもち多様化する高齢者の

医療ニーズに対応する当院のような地域密着型の病院が重要な役割を担うと思われま

す。そういった役割を果たすべく、今年7月から急性期病床を100床から76床に、地域包括ケア病床を34床から58床に変更しました。病院全体の病床数（134床）は変わりませんが当院の病床機能に合わせた病床配分になりました。

地域包括ケア病床は、一般（急性期）病床と比べ、在院日数の制限が最長60日で、少し時間をかけて退院に向けた支援を行うことができるのが強みです。

「かかりつけ医」の役割と「在宅医療」、そして専門性を活かした急性期診療を行うため、医師、看護師をはじめ、薬剤師や管理栄養士、理学療法士や医療ソーシャルワーカーなど、さまざまな資格をもつコメディカルがチーム医療に取り組んでいます。

また、8月から機能強化型在宅療養支援病院（連携型）の施設基準を受けました。市内の4つの在宅療養支援診療所、併設する神戸朝日訪問看護ステーションと協働して、在宅患者さまの緊急入院や在宅での看取りなどのニーズにも対応致します。

これからも、当院の持つ診療機能を最大限に活用して地域医療への貢献を継続して参ります。

「神戸市長田区から韓国と日本の医学のかけはしに」

この度、神戸市と姉妹都市関係である韓国大邱市（人口250万人）から神戸市医師会（会長 堀本仁士先生）、在日韓国医師会（会長 李光喜先生）との相互交流と日本の医療事情視察を目的として大邱医師会（会員 6,164名）の副会長3名（朴源圭先生、金敬昊先生、李相昊先生）と企画担当者（金龍漢先生）の計4名が、8月17～21日の日程で神戸市を訪問されました。

日本ではあまり知られていませんが、大邱医師会は2020年2月に大邱で発生したCOVID-19の感染爆発に対して、その一致団結した力で感染を早期に収束させ、世界的にも評価された韓国のCOVID対策（Korean防疫）の模範となりました。（参考文献：金守良、「韓国におけるK防疫の成果と問題点」日本医師会雑誌 2022年8月）

今回の相互医学交流のきっかけを作ったのは、当院の金守良理事長です。この交流実現のために、今年4月頃より何度も対話を重ね、調整し、漸く大邱医師会の訪日に漕ぎつけました。

以下、金守良理事長よりご報告させていただきます。

日本の医療事情視察のうち、まず8月17日は救急医療について、とりわけ災害救急医療について神戸大学医学部附属病院 救命救急センター長 小谷穰治教授の講義を受け、韓国の救急医療との比較を含め意見交換をしました。

神戸市医師会とは、8月18日 COVID-19対策活動や医療従事者へのハラスメントの実情をめぐって、在日韓国医師会とは認知症を含む高齢者医療をめぐって議論が深まりました。今後定期的交流を継続していくことが確認されました。

金敬昊先生は、両医師会への表敬訪問の傍ら8月21日当院にも訪問され、両国の抱える医療課題について、当院のスタッフと短時間ではありましたが意見交換が出来ました。

また、金敬昊先生は、韓国で導入されていない訪問看護ステーションについて、当院における訪問看護活動を体験されました。

短時間ではありましたが、大邱の先生方は上記の成果に満足感をもって帰路につかれました。



神戸大学医学部附属病院屋上ヘリポートにて



神戸大学医学部附属病院 救命救急センター長 小谷穰治教授のレクチャー



神戸市医師会 表敬訪問



在日韓国医師会 表敬訪問



神戸朝日訪問看護ステーションのスタッフと、訪問看護の現場に同行

外壁保全改修工事完了のご報告と御礼

前号にてお知らせさせて頂いておりました通り、この度、当院では、外壁保全改修および救急室前アスファルト補修工事を行い、お陰様をもちまして9月19日に無事工事を完了致しました。

患者様ならびに近隣の皆さまには、3月1日より約6カ月間の長きにわたり、ご不便とご迷惑をお掛け致しましたが、ここに工事完了のご報告と御礼を申し上げます。



当院は引き続き『「地域包括期病院（地域多機能病院）」として専門診療と地域医療を矛盾なく融合させた“治し支える”医療』を基本方針に、近隣の皆さまはもちろん神戸地域の医療を担うべく、全職員一丸となって精進してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



里芋とひじきの コロッケ

管理栄養士 岡田 さや花



材料（1人分）

- ・里芋／40g
- ・人参／5g
- ・ひじき／1g → 水で戻す
- ・ツナ（缶詰）／10g
- ・塩、こしょう／各少々
- ・薄力粉、溶き卵、パン粉／各適量

■ 今回のメイン食材“里芋”の旬は9月から11月頃。独特のぬめりが魅力的で、栄養豊富な食材です。

■ 特有のネバネバ“ガラクトン”は水溶性食物繊維の一種です。粘着性により食べ過ぎ防止に効果があるとされており、糖質の吸収をゆるやかにするため血糖値の上昇を抑えてくれます。また、腸内環境を整える整腸作用があり、便秘予防に効果的です。同様に含まれる“カリウム”は、体内の過剰な水分を排泄する効果があり、高血圧やむくみの予防効果があります。

■ 今回はそんな良いところ満載の里芋にヒジキを加えることで、より食物繊維を摂れるレシピをご紹介します。

● 栄養量（1人分）エネルギー：220kcal、塩分：1g

作り方

- ① 里芋は軟らかくなるまで蒸し、皮をむいて潰す。
- ② ①に刻んだ人参、水で戻したヒジキ、ツナ、塩、こしょうを混ぜ合わせる。
- ③ 3等分にして丸め、薄力粉→溶き卵→パン粉の順につける。
- ④ 180℃の油できつね色になるまで揚げる。



認定施設

- 二次救急指定
- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 臨床研修指定（神戸大協力型）
- 日本医療薬学会認定薬剤師研修施設

- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働認定施設
- 日本IVR学会専門医修練認定施設
- 神戸市立医療センター中央市民病院
内科専門研修プログラム特別連携施設

交通のご案内

〒653-0801 神戸市長田区房王寺町3丁目5-25
代表電話：(078) 612-5151
神戸電鉄「長田駅」より徒歩5分
神戸市営バス ③・⑥・⑪・④⑩・⑫
「房王寺町5丁目」バス停より徒歩5分

